

Q32~34【理解・啓発】の キーポイントをまとめると…!



「異文化」にどれだけ近づけるか

人がもっている感覚や思考，言動，価値観等を「文化」と考えると，だれでも顔が違うように，その文化も少しずつ違います。それは自分とは異なるという意味で「異文化」と言えます。しかし，同じ環境の中にいると，その差異を見過ごしがちです。

LD，ADHD，高機能自閉症等のある子どもの文化は独特です。ですから，その言動に戸惑うことが多いのですが，「もともともっている文化が異なっている」という認識の下にこの子どもを認めようとしているのでしょうか。自分だけの価値観から，その行動を判断することは避けなければなりません。

私たちは，子どもの文化に自ら近付いていこうとするより，自分の文化に近付いてくるように子どもに要求していることが多いように思います。その結果，私たちと子どもの距離は離れたままで，いつまでたってもお互いに近付けないことがあります。

体験を通しての理解を

互いに近付くためには，私たち大人が疑似体験や著作物を読むこと等を通して，少しでも彼らの感じている世界を知ることが大切です。アイマスクをして道を歩いたり，車いすに乗って段差の不便さを体験したりすることと同じです。

私たちから子どもに近付き，子どもの気持ちに共感しようと努力する。その近付いていこうとする姿勢が子どもに寄り添う学級経営に反映され，本人はもとより周囲の子どもや保護者等の理解も進んでいくものだと考えます。

「みんなちがってみんないい」というのは，自分と異なるものを自分の価値観だけで判断するのではなく，いろいろな考え方や価値観を認めることです。それは特別なことではなく，すべての子どもに対する私たち教員の基本的な姿勢でもあります。